

## 集会宣言文

昨年7月の豪雨は、球磨川流域に甚大な被害をもたらしました。行政側は、水害被災者への聞き取りやまともな原因調査を行うことなく、また被災者を始めとする流域住民の声を聞くことなく、流水（穴あき）型の川辺川ダム建設を含む「流域治水」を推進しようとしています。

流水型ダムであっても、清流日本一の川辺川に大きな環境破壊を及ぼし、鮎、球磨川下りをはじめ地域の観光など流域の産業に大きな悪影響がもたらされます。また、これまで市房ダムで行われてきたような緊急放流の危険性も否定できず、その規模は3倍を優に超えるものになります。

瀬戸石ダムが今回引き起こした水害は犠牲者も含む甚大なものでした。ダムの上下流で全く同じ水位になるなど、水害当日あってはならない異常な現象が発生し、ダム下流では放流により、建造物を跡形もなく流し去りました。ダムの危険性が現実のものとなったのです。にもかかわらず、ダムの管理運営者たる電源開発株式会社（電源開発）や電源開発を指導する立場にある国土交通省は被災者に対して謝罪の言葉さえありません。

県内では、阿蘇で立野ダムの建設が進んでいますが、立野ダムが完成すると阿蘇や白川の環境を破壊してしまいます。熊本市内でわずか数十センチの効果しかない立野ダムよりも、他の方策で洪水を防ぐことは可能です。

ダムによる治水は、清流を壊し、ダムの上下流を危険な状態にさらします。そこにひっ迫している県財政からの支出など認める訳にはいきません。ダム建設に使うお金があるなら、被災者が求める流域の復旧復興や県民の暮らしの向上のために使うべきです。

県内には他にも問題を抱えたダムが沢山あります。ダムが出来たら、簡単には撤去出来ませません。幾世代にも亘って禍根や災厄をもたらすことになります。そんなダムを残す訳にはいかないのです。熊本にダムはいりません。

私たちは、ダムに固執する国土交通省や蒲島郁夫県知事に対して、「川辺川ダム・立野ダムでは命も清流も守れません」「危険な瀬戸石ダムは撤去して下さい」「清流球磨川・川辺川、そして白川はみんなの宝！」という声を上げ続け、川辺川ダム・立野ダム建設中止、瀬戸石ダム撤去を実現し、清流を守り抜くことをここに宣言します。

2021年11月21日「拝啓国交省・蒲島知事どの 熊本にダムはいりません！

川辺川ダム・瀬戸石ダム・立野ダムでは命も清流も守れません」参加者一同